

研究課題名：小児化学療法施行時のカテーテル関連血流感染症の頻度とカテーテル温存の傾向についての研究に関する情報公開

1. 研究の対象

2013年1月1日から2015年12月31日までに名古屋大学小児外科で中心静脈カテーテル挿入手術を施行した方全員

2. 研究目的・方法

小児の化学療法では埋め込み型中心静脈カテーテル（CVC）が頻用される。このカテーテルは非常に便利な反面、カテーテル関連血流感染症（CRBSI）の原因となる。CRBSIはそれ自体が敗血症など生命に危険を及ぼす合併症であり、さらに、治療のプロトコルに影響を及ぼし、適切な時期に適切な化学療法が行えなくなるなどのリスクがある。このため、CRBSIをコントロールすることは非常に重要である。今回、2013年1月から2015年12月までに名古屋大学小児外科でCVC挿入手術を施行した全員について、カルテから情報を参照しCVC抜去の理由とともにCRBSIの頻度を調べる。また、CRBSIが発生した場合は抜去を必要としたか温存できたかどうかを調べ、その違いを臨床経過などから比較検討する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテから、生年月日、性別、カテーテル挿入、抜去の日付、理由、血液培養、血液検査の結果、抗生剤治療の時期と種類、等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学医学部医学研究科 小児外科学

(052) 741-2111 (代表)

研究責任者： 名古屋大学医学部附属病院 小児がん治療センター 住田 亙